

令和6年度 北九州市口腔保健推進会議 議事要旨

- 1 日 時 令和6年10月31日(木) 19:00~20:30
- 2 開催場所 北九州市役所 3階大集会室
- 3 出席者 [構成員] 濱寄構成員(座長)、嵐山構成員、有山構成員、板家構成員、浦部構成員、小畑構成員、重國構成員、白木構成員、中村構成員、中元構成員、堀田構成員、増本構成員、松井構成員、山口構成員、力久構成員
[事務局] 保健福祉局、教育委員会、子ども家庭局

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 保健福祉局健康医療部長挨拶
- (3) 構成員紹介
- (4) 報告
- ①令和5年度歯科口腔保健事業実績について 資料1
 - ②働く世代のオーラルヘルス推進事業について 資料2
 - ③口腔機能低下に関するハイリスク高齢者を対象とした歯科受診勧奨について 資料3-1・3-2
- (5) 議事
- ①生涯を通じた歯科口腔保健の推進について 資料4
- (6) その他
- ①「北九州市しあわせ長寿プラン」について
- (7) 閉会

5 会議概要

- (1) 報告概要
- ①令和5年度歯科口腔保健事業実績について
保健福祉局健康推進課から資料1に沿って報告
 - ②働く世代のオーラルヘルス推進事業について
保健福祉局健康推進課から資料2に沿って報告
 - ③口腔機能低下に関するハイリスク高齢者を対象とした歯科受診勧奨について
保健福祉局認知症支援・介護予防課から資料3-1・3-2に沿って報告

<質疑>

【構成員】

- ・報告②について、定員500名はどれくらいの期間で埋まったのか、またその後の希望者はいたか。

【事務局】

- ・定員は1週間程度で埋まった。応募を締め切ったので、その後の希望者の有無は把握していない。

(2) 議事概要

①生涯を通じた歯科口腔保健の推進について

保健福祉局健康推進課から資料4に沿って説明

<意見交換1:市民の行動目標「しっかり噛んで、食後は歯みがき」について>

【構成員】

- ・保育所では、しっかり噛むことについて子どもたちに言葉かけをするとともに、給食の献立も噛むことを考慮したものを考えてもらっている。食後の歯みがきの状況は施設によって異なる。
- ・歯みがきを実施できている保育所は、歯ブラシ等の消毒ができる器具がある施設が多い。コロナが明けて、歯みがきをする施設は増えている。
- ・幼稚園、小学校等での食育教室や料理教室等で、しっかり噛んで食べることを伝えている。メニューにも野菜など繊維が多くしっかり噛んで食べるようなものを入れている。食後の歯みがきは歯ブラシ持参がネックで出来ていない。
- ・子どもの頃から全員が等しく正しい知識を得られるよう、小学校のむし歯予防や歯肉炎予防の教室で、歯医者に行くのは自分たちの健康を保つためということを伝えている。
- ・小学校では今フッ化物洗口をやっている。また、児童が噛むことの大切さや歯みがきのこと、むし歯になりにくい間食等について学習し、地域に向けて発信する取組みを行っている学校もある。今後、学校での取組みや教育を、いかに家庭に発信していくかが課題。
- ・フッ化物洗口や歯みがきについて、子どもの意識や行動を変えるためには、学校の先生や保護者、行政職員の理解が重要。
- ・市民センター等での歯科相談で、乳幼児の保護者に対して歯科保健指導を行っているが、受けるのは時間と興味がある人に限られている。
- ・共働き家庭の増加等で、ゆっくり家族で食卓を囲む機会が減っている中、よく噛んで食べることや歯みがきについて、いかに保護者が丁寧に指導していくかが大きな課題。チラシ等の資料を配っても、ゆっくり読み解く時間やゆとりがないので、周知が難しい時代。
- ・むし歯は全体のデータを見ると減っているが、間違いなくむし歯が減っていない子どもも存在するので、格差縮小には集団での取組みが必要。すべての人に満遍なく恩恵をもたらすには、義務教育の中で取組みを行うのが最も効果的。
- ・歯みがきは重要だが、歯みがき勧奨をしてもする人はする、しない人はしないので、結果的にむし歯の格差が広がることもある。むし歯予防に間違いなく効果があるのは生活習慣とフッ化物利用。フッ化物洗口は実施率が高くないと効果が見えにくく、実施率を上げるためには地域のつながり、理解が非常に重要。

【事務局】

- ・北九州市の子どものむし歯の状況は政令市ワーストが続いているため、教育委員会では「学校における歯と口の健康づくり推進計画」を策定し、むし歯予防の主な柱の一つとして全小学校でのフッ化物洗口を導入した。
- ・現在の実施率は約75%。洗口の実施は任意なので、子どもが味が嫌だと言ったり、保護者の考え方

によっては、実施しないことになる。義務教育の中での集団的な応用が、健康格差の縮小には有効だと我々も考えているので、計画では実施率について92%という数値目標を立てている。現在は啓発を、来年以降洗口の効果が現れ始めればそれを周知することで、より多くの保護者に意義をご理解いただきたい。

- ・全小学校の2年生と5年生を対象に、歯科衛生士による歯みがき指導を実施しているが、実施率は約50%。これについても100%を目指して取り組んでいきたい。
- ・保護者の理解とともに、教職員の理解が大変重要だと我々も認識している。特に主体的に関わっている管理職と養護教諭の理解が進まないと、フッ化物洗口の実施率が上がらない。引き続き周知啓発を行っていく。

<意見交換2:市民の行動目標「かかりつけ歯科医を持ち、年1回以上、歯科を受診」について>

【構成員】

- ・発達障害の方で、かかりつけ歯科医を決めて定期受診しているという人は結構いる。保護者である40~50代に歯科の重要性が浸透した結果、幼い頃からの習慣になっているという人が増えてきたのではないか。
- ・精神疾患により、頭でわかっていても身体が動かないという人もいるので、家族が口腔の健康維持の重要性を理解し、一緒に連れて行くなどのサポートが必要。
- ・高齢者施設では、様々な職種を対象とした研修等を行っていたところ、コロナ禍で集合研修ができなくなり、今はオンライン研修になっている。歯科医師が施設で研修を行うことはあるが、職員が大学等に集まって研修を受け、それぞれの施設に持ち帰る形でも出来るといい。徐々にそういう動きが復活しているとは聞いている。
- ・高齢者施設で、口腔ケアができているところとそうでないところは臭いが違うという話も聞く。口腔ケアについては職員にも利用者にも、根気よく啓発をしていかなければいけない。
- ・独居高齢者では毎食後に歯をみがく習慣がまだない人が少なからずいたり、認知症があると日常的な口腔ケアが厳しかったりがある。デイサービスでは、口腔体操や水分摂取、唾液腺マッサージ等しっかりなされ、何より昼食後に必ず歯みがきをする習慣がつく。他にも個人に合わせた食形態の選択等、今は様々な取組みがなされているので、高齢者の口腔機能も向上してきたのではないか。
- ・ケアマネジャー向けの研修会で、「かかりつけ歯科医を持とう」のリーフレットを配布している。また市のケアプラン点検のマニュアルを刷新し、アセスメント時にかかりつけ歯科医の有無と最終歯科受診日を確認することを盛り込んでいる。
- ・国のケアマネジャー育成カリキュラムが今年度改定され、誤嚥性肺炎について専門的に学ぶことが位置付けられているので、意識はかなり浸透している。
- ・デンタルフェア等には栄養士会も参加している。学校でも高齢者施設でも、栄養士がいる施設では食形態等の取組みは出来ると思うので、ぜひ相談してほしい。
- ・働いていると、仕事や家のことが大変と言って、むし歯になってもなかなか歯科医院に行かない人が多い。まずは歯の健康に関心を持ってもらうことが重要で、それには何らかのきっかけが必要。
- ・企業が健康診断等にあわせて歯科検診を実施するのが一番いいが、歯科検診でなくとも、健康診断にあわせたチラシ配布による啓発など、何らかの取組みをしていく必要がある。人材不足の中、健康経営が結構なアピールになるということも聞いている。
- ・義歯は臭いが出るので、臭いがつきにくい材料を使い、あまり凹凸のないような使いやすく掃除し

やすい義歯であれば、寝たきりの高齢者等にもいい。

- ・薬局で病院から依頼された口腔ジェルを置いているが、処方する量は結構増えてきている。
- ・市医師会では、健診で糖尿病と言われた人にパンフレットを渡したり、歯科受診を勧めたりしている。食と健康に関するフェアも実施されているので、その周知をすることで医科歯科連携についても広まるのではないかな。
- ・災害支援に行った際、被災直後は温かくて柔らかい食べ物は提供されないで、冷えたお弁当やおにぎりでも食べることが出来ないと、食べる物が無いということを実感した。災害への備えとしても、元気なうちにかかりつけ歯科医を持って、食べられる口の状態にしておくことが重要。

【事務局】

- ・市では今年度、働く世代の健康づくりの会議を立ち上げた。口腔も含め、色々と取組みを検討しているところなので、次回の会議で報告できればと考えている。
- ・災害時の対応について、皆様の意見をお聞きしたいと考えているので、次回の会議に向けてまた相談させていただきたい。

(6) その他

①「北九州市しあわせ長寿プラン」について

保健福祉局長寿社会対策課からプラン及び概要版について情報提供